**１．新設分科会紹介：**

**「流通・物流領域における企業間のデータ・インターフェイス（=GS1）活用」**

**～国際比較からみた産業のシステム化の課題とロードマップの研究～**

**主査　河合亜矢子（学習院大学教授・SIC学術協議会会員）**

**幹事　藤野直明（株式会社野村総合研究所・SIC実行委員）**

 **１. 背景と目的**

産業のシステム化に際しては、企業内部のシステム化はもちろんであるが、企業間インターフェイス（GS1）の重要性を整理することが重要である。企業間インターフェイスが標準化されることにより企業のシステム設計の境界が設計でき、企業間インターフェイスの変更により企業内システムが影響を受けることを回避でき、システムの進化を阻害しない、ノーマライズされた産業のシステムアーキテクチャ設計が可能となるからである。本研究は、この企業間インターフェイスの国際標準GS1に焦点を充てて産業のシステム化、日本の産業の特徴や課題などを検討することが目的である。

企業間インターフェイスとして最も歴史的に重要なのは、商品情報交換～納期回答要請～納期回答、受発注、納品確認、決済といった一連の通常の商品取引の場合のEDIである。EDIは国際貿易物流領域での煩雑なドキュメント処置に端を発し、1980年代に既に発展した経緯がある。このため、まず流通・物流領域における企業間インターフェイス（GS1）発展の経緯を整理することが重要である。次に、2020年現在における流通・物流領域における企業間インターフェイス（GS1）のフレームワークにより全体像を整理することが重要である。

さらに、流通・物流領域における海外・外国企業におけるGS1活用の現状と動向、日本・日本企業におけるGS1活用の現況と動向を、この同一の企業間インターフェイス（GS1）のフレームワークを活用し、整理し比較対照し検討を加えることが効果的と考えられる。

最後に、上記検討を踏まえ、日本の流通・物流領域におけるGS1活用の課題の検討を行い、流通・物流領域における産業のシステムイノベーションの在り方とロードマップ、アクションプランを検討し、提言書として整理する。

**２.　検討項目**

１．産業のシステム化と企業間インターフェイス（GS1）の重要性

２．流通・物流領域における企業間インターフェイス（GS1）整備の歴史

３．流通・物流領域における企業間インターフェイス（GS1）のフレームワークと全体像

４．流通・物流領域における海外におけるGS1活用の現状と動向の把握

５．流通・物流領域における日本におけるGS1活用の現況と動向の把握

６．日本の流通・物流領域におけるGS1活用の課題

７．流通・物流領域における産業のシステムイノベーションの在り方とロードマップ、アクションプラン

の提言

**３.　検討フロー**

・１，２，３は並行検討

・４．５が分岐並行検討、６で集約整理、７で結論を検討

**４.　検討内容と方法**

１．産業のシステム化と企業間インターフェイス（GS1）の重要性

・RAMI4.0やAPIエコノミーなどの動向を整理し、企業間でのインターオペラビリテイを担保する

インターフェイス（GS1）の重要性を明らかにする。

２．流通・物流領域における企業間インターフェイス（GS1）整備の歴史

・GS1の発展の歴史を整理し、流通・物流領域における企業間インターフェイスの発展の過程と

議論の内容を俯瞰して整理する。

・GS1-CONNECTやGS1-USなどでの公開資料を整理する。

３．流通・物流領域における企業間インターフェイス（GS1）のフレームワークと全体像

・2020年現在のGS1のフレームワークと全体像を整理し、流通・物流領域における企業間イン

ターフェイスのフレームワークと全体像整理する。

・GS1-CONNECTやGS1-USなどでの公開資料を整理する。

４．流通・物流領域における海外・外国企業におけるGS1活用の現状と動向の把握

・国内に存在する外国企業へのヒアリングを行う。

・海外動向調査では、クラウドベンダーであるAWS、Microsoft、OpenTextなどのベンダーへの

ヒアリングを通じ、特に東南アジア諸国での流通・物流領域におけるGS1活用状況を把握する。

５．流通・物流領域における日本におけるGS1活用の現況と動向の把握

・国内の各種VAN事業者等に対して、DADC（IPA）の協力の下で、ヒアリングや簡単なアンケー

トを行う。

６．日本の流通・物流領域におけるGS1活用の課題

・４．５．から、外国企業と日本企業、もしくは海外と日本とを比較する視座、フレームワークを整

理し、日本の流通・物流領域におけるGS1活用の課題を明らかにする。

７．流通・物流領域における産業のシステムイノベーションの在り方とロードマップ、アクションプラ

ンの提言

・６の議論を踏まえ、SICにおいて、流通・物流領域における産業のシステムイノベーションの在

り方とロードマップの検討、アクションプランの提言を行う。

**５.　検討体制とスケジュール**

・本研究は、SIC、DADC（IPA）、RRIの協働活動として行う。

参考：DADC[**https://www.ipa.go.jp/dadc/**](https://www.ipa.go.jp/dadc/)

RRI[**https://www.jmfrri.gr.jp/**](https://www.jmfrri.gr.jp/)

・主な役割分担は下記の様に考えている。

１）産業のシステム化と企業間インターフェイス（GS1）の重要性

→RRI（開始後＋２ヵ月まで）

２）流通・物流領域における企業間インターフェイス（GS1）整備の歴史

→SIC（開始後～２ヵ月まで）

３）流通・物流領域における企業間インターフェイス（GS1）のフレームワークと全体像

→SIC（開始後＋～３ヵ月）

４）流通・物流領域における海外におけるGS1活用の現状と動向の把握

→SIC（開始後＋４～６ヵ月）

５）流通・物流領域における日本におけるGS1活用の現況と動向の把握

→DADC（開始後＋４～６ヵ月）

６）日本の流通・物流領域におけるGS1活用の課題

→SIC・DADC・RRIでの協働検討作業（SIC主管）（開始後＋７～8ヵ月）

７）流通・物流領域における産業のシステムイノベーションの在り方とロードマップ、アクションプラン

の提言

→SIC・DADC・RRIでの協働検討作業（SIC主管）（開始後＋９～１０ヵ月）

**６.　検討費用**

・検討作業の経費（人件費＋交通費他）は、それぞれの所属組織で負担していただくこととする。

（本分科会の新設に関しては、２０２０年１２月９日の実行委員会で承認され、１２月１６日の理事会に

報告され了解されました。）

**本分科会活動に参画希望の方（SIC会員に限る）はSIC事務局までご連絡ください**

以上